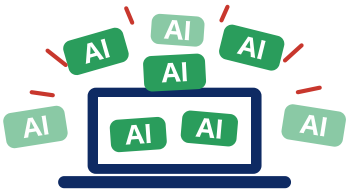
HRソフトウェア開発・エンジニアチーム　導入事例 #01

furious green

TECH CREW が「社内AI格差」に向き合った。追加コストなし

PC1台じゃ、もう足りない！

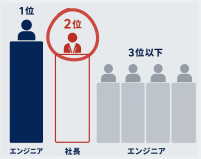
半数がAIに消極的だった開発チームが覚醒した1ヶ月

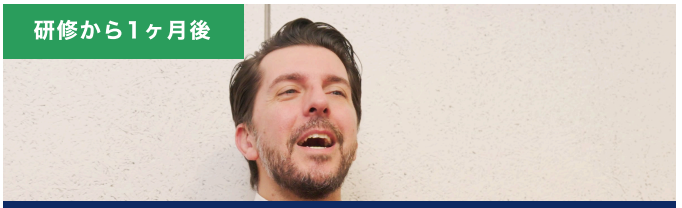




社内のAIツール利用量ランキング

「社長が社内で2位というのは、正直おかしい。エンジニアは全員、私を超えていて当たり前なのに、追いついていない」





1ヶ月後、エンジニアは

「今は、ランキングを見なくてもいいぐらい、みんなが使っている。ゼロに近かった人も、同じぐらい使えるようになりました」

TECH CREW株式会社 代表取締役 CEO　ドレ・グスタボ　研修前と、研修1ヶ月後のインタビューより



AI活用に意欲的なエンジニア

半分 ▶ **全員**

消極的だった半数も、1ヶ月後には意欲的に取り組むようになった。



エンジニアの約75%が、1人で使うPC

1台 ▶ **2〜3台**

PC2〜3台で、**複数のAIを同時に**走らせている。研修前は1人1台が基本だった。



処理能力が向上しても

追加コスト 0

タスクごとにモデルを使い分け、**同じコストのまま、同時に進む作業が増えた。**

※ いずれも ドレ・グスタボさんの発言（研修1ヶ月後）によるもので、計測した数値ではありません。

飲食・小売・物流など、多店舗・シフト型のビジネスに向けて、クラウド型の人事労務サービス「人事CREW」を開発・提供する TECH CREW 株式会社。入社手続きから雇用契約、給与明細、年末調整までをひとつのサービスで完結させ、延べ800社・50万人以上に使われている。研修前、社内でAIツールの利用量を比べると、1位はエンジニアの一人、2位は代表のドレ・グスタボさんだった。使い方は個人任せで、チームのルールは無い。社員のあいだには「社内AI格差」が広がり、人事評価にまで表れていた。

2026年10月16日、Furious Green が開発チームに研修を行った。LLMやループ、Skills の仕組みを体系立てて学び、チームでAIを回す考え方を扱った。

それから1ヶ月。ドレ・グスタボさんは、全員がAI活用に意欲的になったと話す。もともと意欲的だったメンバーは、さらに大きな挑戦を目指すようになった。1人で進めていた作業は、複数のAIを同時に走らせる進め方に変わりつつある。

利用量のランキングは、もう見ていないという。利用がゼロに近かったメンバーも含めて、「みんな同じぐらい使えるようになった」からだ。

COMPANY PROFILE

TECH CREW株式会社

入社手続き、労務管理、年末調整、給与明細、働きがい調査までを、5つのプロダクトで支える。

設立	2016年4月
本社	東京都港区
研修	2026年10月16日
開発	5名（研修時点）

研修前

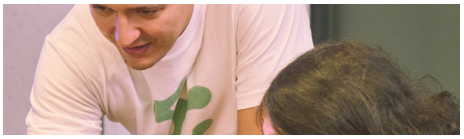
- 使い方は個人任せで、チームのルールが無い
- メンバーごとに、使い方も習熟度もばらばら
- トークンを使っても、成果が見えない

研修から1ヶ月後

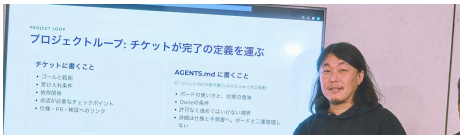
- 研修で使われた言葉が、社内の共通言語になった
- 利用量が少なかった人も、同じくらい使うようになった
- 段階をつけた目標を置き、チームが同じ方向を向く



講義。スライドは「コンテキストを守る4つの習慣」。



ハンズオン。講師が林さんのPCをのぞき込み、一緒に確かめる。



スライド「プロジェクトループ: チケットが完了の定義を運ぶ」。

研修で扱ったこと：チームでAIを回すための「仕組み」



研修の中身

- LLM・ループ・Skills の仕組みを、体系立てて理解する
- チケットに「完了の定義」を書き、チームでAIを回す（プロジェクトループ）
- MCPは必要なものだけ。ツールセットを絞って、効率を上げる
- コンテキストを守る4つの習慣

> **「これまで感覚的に使っていた仕組みを、体系立てて説明してもらえた。仕組みがはっきり見えるようになりました」**
>
> 開発チーム マネージャー　デルポゾ ニックさん（研修直後）

なぜ、Furious Green だったのか　1ヶ月後に、社長が挙げた3つ



1 社内で言うより、現場に届く

「社内だけで話すと、上下関係もあって届きにくい。Furious Green から教わると、『マネージャーが言っている』ではなく『マーケットの最先端の人が言っている』になる。AIの話が、通じやすくなりました」



2 社内に、共通言語ができた

「結果として、社内に共通言語ができた。そこが面白くて、良かったところです。フレンドリーだから、AIは嫌だと言っていた人も、少なくとも会話に入ってきました」



3 最初から難しくしない目標設定

「最初からすごく難しいことではなく、3ヶ月でできること、半年でできること、と段階がある。社内でも、似たようなゴール設定をしています」

発言はいずれも ドレ・グスタボさん（研修1ヶ月後）。 ※監修の代表フランシスコ氏は NAIST で修士号を取得後、Google や CyberAgent でエンジニアリングを率いてきた。

現場の声　研修直後のインタビューより

「自分のAIの使い方が正しいのか、価値を出せているのか、迷っているエンジニアにこそ受けてほしい研修です。」

開発チーム マネージャー　デルポゾ ニックさん

「エンジニア同士がAIについて本格的に話す機会は、意外と少ないものです。こうした研修は、その対話のきっかけになり、チームづくりにも役立つと思います。」

エンジニア　林さん



1ヶ月経って、今思うこと

「社長として見ると、チームが同じ方向を向くようになりました。AIの話だけでなく、チームの中に共通言語ができた。半年後、1年後に入ってくる社員にも受けてもらえるよう、今チームと検討しているところです」

TECH CREW株式会社 代表取締役 CEO　ドレ・グスタボさん（研修1ヶ月後）

AI研修　／　Furious Green合同会社

生成AIを組織に定着させる。PoC止まりで終わらせないための実践的AIトレーニングと技術支援。単なる知識提供ではなく「実務で使いこなす力」をゴールに設定。監修：代表 ダラローザソアレス・フランシスコ。 furiousgreen.co

furious green

研修の内容・ご相談は
furiousgreen.co/contact

TECH CREW株式会社 × Furious Green合同会社

取材・制作　NonTurn.LLC（CASE ONE）